

<奨励賞 5団体>

■ 大阪子どもの貧困アクショングループ（大阪）／20万円

「貧困下にある子どもとシングルマザーの居場所活動」

<p>団体概要</p>	<p>2013年5月の「大阪北区母子変死事件」を受けて「悲劇を繰り返したくない！」と子ども支援関係者を中心に有志が集まり、同月に立ち上げた団体である。見えにくい子どもの貧困を明らかにするために、子どもや家庭の生活を調査し、そこから子ども・親・周りの大人をサポートしていくことをミッションとしている。</p> <p>具体的には、困難な状況にあるシングルマザー100人のインタビュー調査と報告書作成、シングルマザーの相談事業、事件現場近くの商店街において「助けて！って言ってもええねんで！」キャンペーンでの啓発活動によるアウトリーチ、寺院の協力による母子家庭への食料送付の直接支援など、幅広い活動を実施している。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、「CPAO（しーばお）クラブ」として、子どもの居場所づくりと母親のレスパイトケアを行うものである。調査の中で、貧困下にあるシングルマザー家庭の母子が社会的に孤立し、経済的な困難のため、子ども会の会費や交通費の捻出も難しく、母親が仕事に追われて余裕がないことから、子ども達が遊びや多様な経験の機会を奪われている課題を目の当たりにする中で企画されたものである。</p> <p>具体的には、貧困家庭の子ども達（3～12歳程度）とボランティアが月に1回、一緒に遊び、学習支援の機会を持つ。また、食育、遠足や社会見学、キャンプなども実施することで、多様な経験を積み、対人スキルや、知的好奇心・将来の希望・意欲を育む。その際に、母親達はお茶会で休息しお互いにつながりを作る。</p>
<p>講評</p>	<p>2014年1月に「子どもの貧困対策法」が施行され、貧困の連鎖への対策は急務となっている。貧困家庭の子ども居場所と母親の支援を行う本事業については、先進性・創意工夫・社会性を評価した。また、専門・経験をもったボランティアや、企業からの場所の無償提供、同じ問題に取り組む他のNPO・団体との協力関係を築いていることから、高い共感と市民参加があると言える。</p> <p>設立から日も浅いが重要な課題であるため、本アワードからの助成をすることによって団体自体の応援ともしたい。これから実績を積み上げてもらい、次年度以降はさらなるプログラムの充実と深化を期待したい。</p>

- 特定非営利活動法人 ころろ・あんしんLight (兵庫) / 12万円  
「メンタルヘルス教育～ころろの不調・病気を理解し、友達をささえよう!～」

<p>団体概要</p>	<p>思春期の精神疾患を抱える子どもの家族が小さな集まりを開始し、講演会を開催したことにより家族会を設立し2008年に活動をスタートした団体である。2009年には団体を設立して学校や医療関係者との連携活動を初め、2011年に特定非営利活動法人格の認証を受けた。児童や青年期にころろの不調・精神疾患を抱えている子どもと家族の生活を支えあい、情報交換できる場所づくりや、学校・地域への心の病気の正しい理解と支援の啓発活動に一貫して取り組んでいる。</p> <p>具体的な活動は、家族定例会、子どもの集まり、電話・メール・面談による相談などの支援と、講演会、家族と医師との懇談会、教員・養護教諭などの支援者向けの懇談会・懇親会などを行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>近年、ころろの不調・病気の子どもの増加し、思春期に発病率が高いにも関わらず、学校教育ではころろの病気に関しての取り組みが少ないため、間違った理解と対応がされることが多く、本人はとても辛い日々を送り病状が悪化し学校生活が送れないケースが少なくない。本事業は、教育プログラム「ころろの不調・病気の理解と友達を支えよう!」を作成して、学校で出前授業を行うものである。</p> <p>具体的には、ころろの不調・病気を正しく理解し、その友達にどのように接したらよいかなどを掲載した冊子を作成し、学校の出前授業で配布する。また、各地のメンタルヘルス教育を公開し、子どものころろの健康を守る学校・地域づくりを目的にした「学校教育とメンタルヘルス」のシンポジウムを開催する。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、子どもの精神疾患に特化した支援であり、先進性・創意工夫・社会性の面で高い評価となった。本事業は、不登校などの背景にころろの不調が多い現代社会において重要な支援であり、長年このテーマで地道に活動をしている当団体であるからこそ取り組めるものであることから、実現性も高い。</p> <p>今回、冊子を作成することで、ころろの病気について子どもも大人も早い時期から正しい理解を促進し、支えあう気持ちを持つことを目指している。本アワードの助成によって、ころろの病気への理解と支援が学校教育の場から広まることを期待したい。</p>

■こどもひろば（大阪）／20万円

「こどもひろば受験生応援プロジェクト」

<p>団体概要</p>	<p>当団体は成人の外国人住民を対象としていた地域日本語教室である「ことばの会もりのみや」に併設する形で2005年に開設され、2011年に「こどもひろば」として独立した団体である。</p> <p>現在、小・中学生の放課後の学習支援、母語で中学校まで卒業して来日し高校へ直接入学するダイレクトの子ども達の高校受験支援、外国の子ども達の居場所づくりに取り組んでいる。特に設立当初より行っているダイレクト受験生の支援活動に関しては、2012・2013年度に母語支援者の養成研修を開催したことで、スタッフの育成と支援活動の充実がなされた。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、来日してすぐに高校受験するため学校に属することが出来ないダイレクト受験生に対して、高校受験制度や課題などを理解した支援と、母語による支援を両輪として高校入学までを支えるものである。</p> <p>活動の対象となる子ども達とその保護者の中には、日本語がままならない人が多数おり、学校制度や文化の違いにとまどうことも多く、高校入学が高いハードルになっているため、通常行っている日本語および教科の学習支援だけでなく、教室外の支援が必要である。そのために教室外支援として、学校説明会・進路ガイダンス・各種イベントへの付き添い・参加に、日本人スタッフと母語支援者を派遣する。母語支援は元学習者である当事者ボランティアが担うことで、人材の育成も図る。</p>
<p>講評</p>	<p>本事業は、外国にルーツのある子どもの受験支援としての支援者派遣事業あり、その社会性と実現性を評価した。また、母語支援者には当事者が携わることで人材育成とその後の包括的な支援活動につなぐことを想定しており、新規チャレンジ性としても評価できる。</p> <p>この課題は行政レベルでもまだまだ未整備の状態であり、本アワードで助成することによって、モデルケースや支援体制のシステムを確立されることを期待したい。また、制度の狭間に落ちている学齢を超えて来日したダイレクトの子ども達への支援が拡大するように、第一線からの積極的な情報発信を望みたい。</p>

■特定非営利活動法人 使い捨て時代を考える会（京都）／20万円

「子ども達とともに食と環境について学ぶ」

<p>団体概要</p>	<p>世界的な天候異変で大豆や小麦が不作となり、国内で水銀汚染とった環境問題が広まり、石油危機が起きた1973年に、高度成長の中にあつて、モノ豊かな社会が本当に良い社会なのかという疑問をもった人が集まり設立した団体である。</p> <p>使い捨て時代が様々な形で私達の生活に深刻な影響を与えている中、問題を共に考え、生活を見直すとともに、環境の保全と有機農業の推進に努め、社会全体の利益の増進の寄与を目的にしている。</p> <p>具体的には、みそ・ジャム作りなど手づくり食のある暮らし知恵を伝える講習会、日本の有機農業を広め支援する事業として団体所有の農場運営などを行っている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、子ども達と家族への年間を通じた農業体験プログラムである。これまで当団体が実施してきた農業体験と伝統食作りを子ども達に伝え、食・環境・農は経済でははかれない、繋がっていること・いのちを育むことを体験的に理解し学ぶ。</p> <p>子ども達は、農作業を通して「たべもの」を得るための協働作業を体験し、動物の世話や収穫した野菜の加工・料理することで伝統的な保存や工夫の知恵を学ぶと共に、循環農業についての学習会で水やエネルギー問題についても学習する。</p> <p>また、京都府下の約1000人の東日本大震災からの被災者にも案内する。狭い避難者用住宅に留まっている方々が野に出る機会として、子ども達には農業体験、子どもと関わり土を耕して健康を維持してきた方にはボランティア参加を促す。</p>
<p>講評</p>	<p>これまで農場を運営し、食・環境・農について様々な活動を展開してきた当団体が実施する新しい子ども・家族向けの事業であり、実現性が高く評価された。さらに、都市と農村を結ぶことや、東日本大震災の避難者へアプローチとしても組み立てており、社会性・創意工夫もある。</p> <p>安全な食への関心は高まっているが実体験の場は少ない現代において、次世代を担う子ども達への農業体験は必須であるとも言える。本アワードの助成を契機にして、単年度で終わらない農場を中心とした新たな展開につなげて欲しい。</p>

■特定非営利活動法人 兵庫県子ども文化振興協会（兵庫）／20万円

「ホッとアートプレゼント事業『絵本はともだち』」

<p>団体概要</p>	<p>1982年に兵庫県下の子ども劇場・おやこ劇場の共益団体として発足した団体である。阪神・淡路大震災をきっかけに被災地の子ども達に人形劇や音楽を通じて励ます活動に奔走し、1999年に特定非営利活動法人の認証を受ける。子どもに関する諸団体の連絡・交流・支援などの事業を行い、子どもの文化の創造と社会参画の機会の拡充を図り、子どもの豊かな成長に寄与することを目的としている。</p> <p>具体的には、子どもが自らつくりだすキャンプ・交流会、子どもと文化に関する活動の交流・サポートおよび人材養成・情報提供、舞台鑑賞・表現活動・ワークショップの企画などによって、多くの子ども達に感動と体験を伝えている。</p>
<p>事業概要</p>	<p>本事業は、病院の小児病棟で活動する「絵本の読み聞かせボランティア」の養成講座を実施するものである。入院中の子ども達に少しでも子どもらしい時間を過ごしてもらうため、学校や図書館などで読み聞かせボランティアとして活躍している人を対象に、病院での心構え・注意点などを学び、病院見学会や実習まで行う実践的な内容である。</p> <p>2008年から5箇所の小児病棟へ人形劇・クラウンショーなどのプロの公演を届けており、継続の要望はあるが、プロ公演は経費や会場などの問題点がある。その克服に、読み聞かせをテーマにした病院ボランティアを育成することで、裾野を広げ、病院からの回数増加の希望にも応える体制づくりを目指している。</p>
<p>講評</p>	<p>病院に入院中の子ども達への支援活動はこれまでも必要とされてきており社会性は高いテーマであるが、本事業は読み聞かせボランティアに絞った先進性の高いプログラムである。子どもの芸術支援活動を長くしてきた当団体が、セミプロ養成し活動を広げる点においても、実現性・効果と発展性も評価した。</p> <p>当団体は養成講座の受講生をボランティアグループ化することを展望しており、本事業を通して新しい病院を増やしたり、小児科以外の産科・高齢者などにも活動が広がり、発展することを期待して本アワードの助成としたい。</p>